

# 2019 年度 事業報告書

長岡のまつり活性化委員会 委員長  
大川 俊泰

## 1. 事業内容

- (1) 雪しか祭り
- (2) 6月公開例会 ～まつりだヨ！全員集合～
- (3) 長岡まつり事業 ～長岡市民神輿渡御～
- (4) Nagaoka 高校生フェスタ 2019 ～私たちにスポットライトを～

## 2. 所感

我々長岡のまつり活性化委員会では、長岡のまつりを通じて地域に住暮らす人々の結束力と郷土愛を高め、地域を活性化する原動力になるよう、活動の意義を考えながら多く市民を巻き込みまつりを盛り上げ一年間活動して来しました。

雪しかまつりでは、長岡の冬をおもいっきり楽しめるまつりのコンセプトのもと、どうやったら子ども達に楽しんでもらえるか考え参画しました。当日は雪が全く無い状況での設営となりましたが、そのなかでも多くの子ども達に楽しんで参加してもらう事ができました。今後雪が無い状態での設営が多くなる可能性がありますので、雪なし祭りも想定した計画が必要だと感じました。また、新年最初の対外事業になりますので、メンバーみんなを巻き込んで結束力を上げるきっかけになると思います。2 日間に渡り協力していただいたクラブソイガイヤーメンバーをはじめ多くのメンバーにご参加いただき感謝いたします。

6 月公開例会では、まつりを活かしたまちの活性化として、まず、みんなが参加出来る祭り、参会し易いまつりにする必要があると考え、どのようなまつりをして行けば良いのか考える例会を設営いたしました。講師の山本哲也先生のまつり参加者としての膨大な情報の中からまつりの活性化、地域活性のヒントがもらえたと感じます。難しいお題ではありましたが、委員会メンバーの力のおかげで実施することができ、結束力を上げることができました。

長岡まつり事業長岡市民神輿渡御を、長岡まつり平和祭の最後に行われる越後長岡慰霊神輿渡御会場において多くの市民と共に行い、まつりを盛り上げました。また、神輿会場全体を取り仕切る神輿協議会の運営も担い、何年も変えていなかった渡御ルートを変更するなど協力団体とも連携し、例年以上に盛り上げる事ができたと感じます。本年度は、神輿の大幅の改良や、新入会員の出向が無いなど、例年とは大幅に実施内容を変更しての設営となりましたが、本事業をなぜ長岡青年会議所が続けてきたのか、その真の部分の部分がしっかり確立できていれば、手法だの外見に拘らずより良いと思うものに変えていっていいと示せたと感じています。ですが、なんと言ってもメンバーが本気になって力を貸してくれなければ本事業の成功はありえませんでした。感謝しています。これからも絶対的な目標に向かってメンバーみんなで団結できる長岡まつり事業が続いて行くことを願っています。

Nagaoka 高校生フェスタ 2019 を 7 カ年計画の集大成として実施しました。年々集客数や規模が大きくなったり、高校生の主体性を伸ばすなど進化してきた事業ですが、本年度は発足当初の一

つの目標であった高校生による自走を目指し活動しました。自走こそ叶いませんでしたが、高校生自ら企画運営、協賛金集めなど頑張ったおかげで、8月3日当日は過去最高の8000名の一般来場者数を記録しました。若者の発想力やエネルギーのすごさを改めて実感しました。一年間頑張ってくれた高校生実行委員会のみんなに感謝いたします。目標であった自走ができなかったことで7カ年を節目として一端高校生フェスタとしては閉じることになりますが、若者の力を発揮できるようにするためにはどうする、若者の力が発揮できるまちになるには何が必要なのかなど、様々な課題が見えてきたと感じています。7年の検証結果を活かして若者の可能性を更に引き出して活躍できる新しい事業が生まれることを期待しています。

おまつり系委員会はほとんどが継続事業ではありますが、全事業に対したただ続けてきたからやるのではマンネリ化していずれ必要ないものになり、委員会自体の存在意義も薄くなってしまいます。常になぜやるのかその意義を考えるからこそ変えるべきところ、変えてはいけないところが見えて、より必要なものになっていくのだと思います。中身がしっかりしているからこそ自信が持てて回りにも良い影響が与えられるようになっていくのだと思います。

1年間を振り返ると、不安や葛藤が多くあったのと同時に本当に貴重な経験をさせていただきました。任命していただいた上村英輔理事長に心より感謝いたします。たびたび愚痴を聞いてくださった菰澤圭介副理事長、細川一彦常任理事にも感謝いたします。最後になかなか自分自身活動の答えが見いだせず面倒くさい委員長だったと思いますが、最後まで支えてくれた委員会メンバー一人一人に感謝いたします。大切な仲間です。ありがとうございました。